

さくら湖管理ニュース

No.13
6月
2002年
き行
国土交通省 東北地方整備局
三春ダム管理所

より良い河川環境や景観のため リフレッシュ放流開始

平成12年度から実施している夏の期間のリフレッシュ放流を、今年も6月中旬から開始します。

大滝根川はダム直下流で0.8 m³/s以上、赤沼水位観測所地点で0.91 m³/s以上の流量があれば、魚をはじめ河川の動物や植物の生息環境を維持する事が出来ます。しかし、変化の少ない流量が長時間続くと、河床の礫に付いた藻類や汚れなどが付いたままとなり“よどみ”の原因となってしまいます。よどみからは臭いが出たり、自然環境の悪化や景観の阻害へとつながります。そこでリフレッシュ放流として、週1回ダムからの放流量を最大20 m³/sまで増やし、古くなった藻類や河川の汚れなどを流して、良好な環境や景観を持続します。



←西方警報所

放流量は、4時間程度で20 m³/sに達します。

このため赤沼水位観測所地点では、1時間に20cm程度、河川の水位が上昇します。

増量放流を開始する時は、スピーカーから警報をいたしますので、河川利用者は留意して下さい。

警報は三春ダム下流から阿武隈川合流までに15ヶ所ある警報所で行います。

小さな苗に大きな未来を託して

平成14年度 田村地方植樹祭

5月23日(木)に平成14年度田村地方植樹祭が、小野町「緑とのふれあいの森公園」で行われました。これは、緑化運動を通じ自然環境や森林資源の大切さの認識を深めるため、毎年行われているものです。

式典では、緑化功労者と緑化推進優良校の表彰を行った後、参加者全員での記念植樹が行われました。

ありがとうございます

《緑化功労者》

三春町 宗像貞夫さん、他6名

《学校環境緑化推進優良校》

最優良校 都路村立岩井沢小学校

優良校 都路村立都路第二中学校

《学校植林推進優良校》

船引町立中山小学校



頂いた苗を管理所へ植樹しました→



出水期に向けて、ダム管理演習が行われました

本年も、梅雨及び台風等による出水期が近づいていることから、防災体制に万全を期すためダム管理演習を5月8日（水）9:00～17:00までの1日、行いました。

参加機関は、国土交通省はもちろんのこと、県・市・町・警察・消防です。



三春ダムでは、今後の出水期・防災体制に万全の体制で望んでいます。



ダムコンが壊れた時を想定して、流入量を電卓で計算するのは大変です。（写真上↑）

演習は、ダムへの流入量計算及び放流管理、ダム下流大滝根川の河川巡視、関係機関との情報通知等実践形式で行い、問題なく無事完了しました。

湖水に沈む先人の歴史と文化を学ぶ

第7回大滝根川流域勉強会が、5月17日（金）「大滝根川下流域の歴史と文化」をテーマに自然観察ステーションにおいて開催されました。

今回は三春町歴史民俗資料館の山口晋さんを講師に迎え、現地見学も行われました。

三春町内には、現在までに知られている遺跡が約230箇所あり、特に三春ダム関連遺跡発掘調査の結果として、特にあげられる代表的なものの概要は、以下のとおりです。



1. 春田遺跡

大滝根川左岸の河岸段丘に営まれた集落跡。
縄文時代の竪穴式住居、埋設土器、律令時代の掘立柱など、最古の土器である爪形文土器の破片が出土しており、一万年以上も前から大滝根川流域で人間が定住し、川で魚を捕っていたことが想像される。水面から約6～8mに位置しており、大滝根川の氾濫に遭うことはなかったが、現在は湖底に沈む。

2. 西方前遺跡

三春ダム下流の道路工事により発掘調査を実施。縄文時代中期から弥生時代、また平安時代の竪穴式住居跡等、多数発見。大滝根川に接するように位置しているため、氾濫によって集落全体が水没した時期があり、一時離れた時があった。

3. 柴原A遺跡

西方前遺跡の約3km上流、大滝根川右岸（北側）に立地する縄文時代後期の大規模集落として注目される。竪穴式住居、竃石住居跡、配石遺構、埋設土器など多く発見。また竃石等の形から、火を焚いて「まつり」を行っていたことが想像される。川の氾濫によって集落全体が埋没した時期を確認。

4. 越田和遺跡

大滝根川支流の蛇石川右岸に営まれた律令時代と、縄文時代後期の集落。竪穴式住居跡、掘立柱建物跡、竃石住居跡、井戸後、配石遺構などが発見されている。

5. 前ノ久保遺跡

平安時代の大集落。竪穴式住居、土坑などが発見される。住居跡からは、耳皿という当時の着置きや須恵器といわれる甕が出土されている。

6. 西方館跡の概要

三春城の出先のお城で、館主は三春城主の家来。掘立柱建物跡、門跡、平場、郭、土塁、外堀等が発見。戦闘態勢になったときの施設であり、通常の生活は現在の西方集落で営んでいたものと思われる。

西方館跡の見学→



次回は6月21日（金）「大滝根川中流（船引町）の歴史と文化」をテーマに開催する予定です。

教科教室型のオープンスクールなど、ユニークなシステムを取り入れている『さくら中学校』の滝田校長先生にお話をうかがってみました。

ユニークなシステムを持つ学校と聞いていますか？

桜中は平成3年にダム建設に伴って開校した学校です。

山小盛産の「ホームベース」は、生徒達のくつろぎスペース→

「教科教室型」の学校で、生徒は各教科ごとに教室を移動します。特定のクラスルームはなく「ホームベース」と呼ばれるロッカールームとくつろぎの空間を兼ねたスペースがあります。生徒たちはここで学習の準備をして各教科の教室に向かいます。教室で先生が来るのを待っているのではなく、自分たちで動かなければなりません。このことが、「自ら進んで学習する」という気持ちを育てていると考えています。



パーソナルモジュールという言葉聞いたのですがどのようなことですか？

モジュール学習と呼ばれる桜中の学習方法の一つで、生徒たちが自分で時間割を作成できる仕組みのことです。

生徒の学習のこだわりや個性、学習スタイルや進度に応じた活動となります。「自分たちでやっぺいこう」という主体性をもって、学習やその他の活動の取り組む姿勢ができる効果があります。例えば、校内に「ネイチャープロテクターズ」という生徒たちの作った組織があり週に1回30人くらいの有志が集まってゴミ拾いをします。これも生徒たちが自主的に立ち上げたものです。

三春ダムへご意見などあればお聞かせ下さい。

例えばダムの表面に木を並べて目立たなくするとか、自然の中にとけ込めるようなもっと夢のある造りになるとよいと思います。

九州の川辺川ダムのようにマスコミ報道の中ではダムに対して一般に悪いイメージがありますが、これはダムを造る側からの説明があまりされてこなかったせいではないでしょうか。

名前 滝田 文夫 (たきた ふみお) 郡山生まれの郡山育ち



趣味 スポーツ全般

一言 桜中は3年目となります。

三春ダムの出来上がる姿は船引南中に勤務していた頃、通勤経路だったため、コンクリートが少しずつ高くなっていく様子を毎日見ていました。

取材に行った時は、ちょうど部活動の時間でしたが、顧問の先生の多くが出張しているにも関わらず、生徒たちが自ら進んで活動している姿が印象的でした。桜中学校について詳しく知りたい方は、ホームページを見てください。

<http://www.miharu.net6.or.jp/~sakura-j/index.htm>

「地域に親しまれるダム」を目指して

三春町立桜中学校の総合学習の講師になりました

さくら湖周辺には、三春ダム資料館、石畑水生生物観察園、蛇石ピオトープ、向山森林公園など、ダムの働きを学んだり、自然に親しむことの出来る施設がたくさんあります。

三春ダムの近くにある、三春町立桜中学校では「生きることを見つめる学習」をテーマに、生きる力を身につける総合学習を積極的に行っています。

5月2日(木)三春町自然観察ステーションで、ダムの役割とダムができてからの生物・気象・水質の変化について、佐々木水質係長が3年生を対象に、約40分間の講義を行いました。



また5月10日(金)には、郷土クイズに答えながら、学校からさくら湖までを往復するネイチャーウォーキングの講師として、三春ダムの概要説明を行いました。

三春ダムは、小中学校で行われる「総合的な学習の時間」を支援しています。

5月のダム見学

- 5月10日(金) 福島県三春町立桜中学校 65名
 5月10日(金) 福島県郡山市立緑ヶ丘第一小学校 130名
 5月14日(火) 福島県郡山市薫地域公民館「歩け歩け運動」 45名
 5月31日(金) 福島県中郷小学校 7名 (写真下↓)

ダム見学後、さくらの公園へ向けて出発です→



資料館からのお知らせ

6/1(土)から6/30(日)まで資料館1Fでは、
 流域紹介“大越町展”を開催中です。



←県立公園「高梁山」のツツジは、
 まるで真っ赤なじゅうたんのよう。

大越町のすぐ横にあるのは、
 町の英雄「虎五郎・権五郎兄弟」
 の、ブロンズ像→



さくら湖に流れ込んでいる大滝根川の水は、大越町にある
 大滝根山が源流です。美しい自然がまだまだ残る、大越町
 へ足を運んでみましょう。
 また、資料館に新しいフィールドスコープが登場しました。
 野鳥の観察にお使い下さい。

編集後記

さくら湖管理ニュースの編集委員に、今年度も
 付く事になりました。私の場合は、取材を行う事
 はほとんどありませんが、管理系の業務に関する
 記事の作成が担当になっております。毎回、どの
 ような内容にすれば分かりやすい記事なのかな？
 などと考えながら作成しています。

今後も分かりやすく、読みやすい記事の作成に
 努めていきたいと考えています。(矢倉)



ダム見学(後編)～資料館～



お断り：来場者は100万人は達してません。

編集・発行 国土交通省

東北地方整備局
 三春ダム管理所

〒963-7722

福島県田村郡三春町大字西方字中ノ内
 403-4

TEL 0247-62-3145 FAX 0247-62-3170

ホームページ

<http://www.thr.mlit.go.jp/miharu>